

植物園整備検討に係る有識者懇話会(第 1 回)

<テーマ>

府立植物園整備に係る経過、課題、方向性について

京 都 府
文化施設政策監

府立植物園の整備について

1 京都府立植物園の概要

- 大正13（1924）年に日本で最初の公立総合植物園として開園して以来、植物を保存・栽培・展示し、広く府民の憩いの場とするとともに、植物の観賞を通じて教育・学習・植物学の研究に寄与するための施設「生きた植物の博物館」を理念として公開・運営。

総面積	約240,000m ² (24ha)
入園者数	令和3年度 580,798人 令和2年度 574,084人 令和元年度 852,955人
保有植物	約12,000種
	シダ植物門 約 189種 種子植物門 約4,759種 園芸植物等 約7,000種



観覧温室（3代目）



植物園正門

2 府立植物園の整備経過

H21.10 府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画

日本一おもしろい、心やすらぐ植物園 ※おもしろい⇒心ひかれる、興味深い、楽しい

<取組の方向性及び主な取組例>

- 見てもらって、わかってもらってなんぼ。思わず入りたくなる施設や興味を抱いてもらえる展示手法
- 生きたほんまもん植物の展示・技の継承
- 現代人のオアシス、京都らしい文化・古典に思いを馳せる展示

高山植物栽培室、植物展示場、北山オープンカフェ（現IN THE GREEN）
賀茂川門、北泉門、ボタニカルテラス等を整備

H31.2 京都府立植物園100周年未来構想

京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアの形成

<取組の方向性及び主な取組例>

- ワンストップサービス・インフォメーション機能の向上のためのビジターセンター等を備えた複合的な正門エントランスの整備
- 観覧温室の建替や大規模改修等の検討、植物標本庫、常設展示室、図書コーナー等の整備
- エリア内の回遊性の向上など、エリア内に立地する各施設との垣根をなくした連携

R元.10

京都府総合計画

京都市域のエリア構想 「北山『文化と憩い』の交流構想」

京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアの形成

<取組の方向性及び主な取組例（植物園抜粋）>

- 植物園にビジターセンター、ショップ、カフェ等を備えた複合的な正門エントランスの整備
- エリア内に立地する各施設との垣根のない連携

R2.12

北山エリア整備基本計画

「北山『文化と憩い』の交流構想」を実現するにあたり、北山エリアの整備の方向性を示すために「北山エリア整備基本計画」取りまとめ

<取組の方向性及び主な取組例（植物園抜粋）>

- 来園者サービス機能向上 …… 環境に調和したエントランス、雨天時に広場を使用できる大屋根を整備
- アミューズメント機能向上 …… 土産等が購入できる施設や観覧の合間に寛げるカフェ・レストランを整備
- 教育・研究機能向上 …… 貴重な資料等の展示施設、植物標本庫、研究室、多目的室等を整備
- 観覧温室建替又は改修 …… 老朽化が深刻な観覧温室の建替又は改修を実施

R4.5～

府立植物園整備検討に係る有識者懇話会

京都府立植物園100周年未来構想の概要

1 策定の趣旨

2024年に開園100周年を迎えることから、「生きた植物の博物館」の理念のもと、府民目線でさらなる魅力創出に向けハード・ソフト両面を見据えた未来構想を策定

2 現状と課題

京都府立植物園は「植物を育成栽培し広く府民のいこいの場としてこれを公開」し「植物の観賞を通じて一般の教養に資する」とともに「植物学の研究に寄与する」という使命を果たすために、三つの柱で運営・事業展開している。

- ◇栽培技術の継承・発展による世界の植物の栽培・保全・育成・展示
- ◇世界の植物の展示・鑑賞等を通じた教育・学習・研究への寄与
- ◇植物栽培技術を活かした植物多様性保全への貢献

府立植物園『魅力あふれる施設』整備計画（平成21年度策定）により、これまで順次魅力向上・発信のための施設整備を実施。今後、さらなる魅力やサービスの向上・機能強化はもちろんのこと、北山エリアやその周辺地域との幅広い連携と調和を図ることが求められている。

3 植物園100周年に向けた取組の方向性

「植物が主役」の理念のもと、植物園の三つの柱（上記）をさらに発展させるとともに、植物園単体ではなく北山エリアの立地施設をはじめ、その周辺地域との連携と調和を考慮しながら、環境にも配慮しつつ、大きな視点で課題に対応するため、以下の方向で取組を進めて行く。

(1) 植物園のさらなる魅力向上や来園者の利便性・快適性の向上

(例)

- ◇ビジターセンター、ショップ、カフェ等を備えた複合的な正門エントランスの整備
- ◇観覧温室の建替え・大規模改修等の検討着手（工法・資金調達手法の検討等）
- ◇わかりやすく親しみやすい解説・展示や多言語対応、AR（拡張現実）・VR（仮想現実）等先端技術を活用した新たな展示企画 など

(2) 教育・学習・研究及び希少植物保全に向けた機能強化・体制整備

(例)

- ◇教育・学習・研究機能の充実・強化を図るための学芸員等の配置
- ◇栽培・展示技術を継承するための人材育成、見える・見せるを意識したバックヤードの機能向上
- ◇植物園として不可欠な植物標本庫、常設展示室、図書コーナー等の整備
- ◇課外授業や修学旅行に年間を通じて対応できる教育プログラムの確立 など

(3) 来園者サービスの向上に向けた柔軟で弾力的な企画及び管理運営

(例)

- ◇これまでにない柔軟な発想による来園者サービスの提供
- ◇開園時間の弾力化など、柔軟で弾力的な管理運営
- ◇民間のアイデア・ノウハウの導入による植物園のポテンシャルを活かした行催事の開催 など

(4) 北山文化環境ゾーン※全体とのソフト・ハード両面での連携の推進

(例)

※ 令和元年10月 新総合計画策定時に、北山文化環境ゾーンから北山エリアに変更

- ◇民間のアイデア・ノウハウを活用したエリアマネジメントにより、終日エリア及びその周辺地域で楽しめる仕掛けの構築
- ◇旧総合資料館跡地等を活用した施設整備を見据えた植物園の整備
- ◇エリア内に立地する各施設との垣根をなくした連携 など

有識者懇話会で議論いただきたいこと

- 京都府立植物園の魅力向上及び施設等の整備に関すること。
- 京都府立植物園の研究・教育機能の強化に関すること。
- 国内外の先進的な植物園における取組事例に関すること。
- 北山エリア内の他施設との連携に関すること。
- その他必要な事項に関すること。



京都府立植物園は、次代を担う子どもたちをはじめ幅広い世代が、植物にふれあうことで、楽しみながら自然環境や植物と人との関わりについて学ぶことができる「生きた植物の博物館」であることを前提に、「100周年未来構想」の具現化など、これからの植物園に求められる整備内容の検討を進めてまいりたい。